

【演題名】 平戸度島スタディ：島民におけるアレルギー性結膜炎の有病率とリスク因子

Prevalence and risk factors for allergic conjunctivitis: Hirado-Takushima study

【ショートタイトル演題名】 アレルギー性結膜炎の疫学調査

○高静花<sup>1)2)</sup>、有田玲子<sup>1)3)</sup>、溝口尚則<sup>1)4)</sup>、福岡詩麻<sup>1)5)</sup>、川島素子<sup>1)6)</sup>、白川理香<sup>1)7)</sup>、鈴木崇<sup>1)8)</sup>、森重直行<sup>1)9)</sup>

1) LIME 研究会 2) 大阪大 3) 伊藤医院 4) 溝口眼科医院 5) 大宮はまだ眼科 6) 慶應大 7) 東京大 8) 東邦大大森 9) 大島眼科病院

【目的】 平戸度島での疫学調査で、島民のアレルギー性結膜炎(以下 AC)の有病率とリスク因子の検討を行った。

【方法】 6 歳以上の全島民を対象とし、AC は臨床的診断基準にしたがって、眼掻痒感、結膜乳頭有で有病率を、3 次スプライン近似により年齢推移を算出した。AC に関する患者背景リスク因子の検討を Fisher の直接確率法、Logistic 回帰によるオッズ比推定を行った。

【結果】 6~96 歳までの島民 384 名 (男：女、141：243) のうち、適切に検査が終了できた 354 名 (男：女、133：221) を解析対象とした。AC の有病率は 27.1% だった。3 次スプライン曲線では男性では 10 歳代、女性では 20 歳代が有病率のピークだった。40 歳以上で Logistic 回帰多変量モデルを涙液関連パラメーター、年齢、性別、身長、体重、全身疾患 (高血圧、糖尿病、心臓病、膠原病、脂質異常症、うつ病、アレルギー)、全身疾患内服 (降圧薬、抗糖尿病薬、心臓病薬、膠原病薬、脂質降下薬、睡眠薬、前立腺肥大治療薬)、喫煙の有無、屋外にいる時間、VDT 作業時間について検討したところ、AC では年齢 (オッズ比 OR = 0.56)、角結膜フルオレセイン染色スコア (OR = 1.83)、眼瞼異常所見 (OR = 2.08)、DEQS スコア (OR = 4.78) がリスク因子として考えられた。

【結論】 平戸度島での AC の有病率は 27.1% で、特に若い世代に多かった。AC では年齢、角結膜フルオレセイン染色スコア、眼瞼異常所見、DEQS スコアがリスク因子として示唆された。

利益相反

有田玲子 P、 F IV (参天)

溝口尚則、川島素子、森重直行 なし

白川理香 F III ニコンヘルスケア

高 静花 F IV SEED

福岡詩麻 F IV (参天)

鈴木崇 F IV メニコン HOYA 興和 千寿